

2017年度
事業報告書

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

b. 関連行事

(1) アクセス・アート・プログラム (障害のある方と共にアート鑑賞を楽しむ企画)

・ 聞こえない人とつくる「対話」をテーマにしたワークショップ

日時 10月14日(土) 14:00~16:00、
10月27日(金) 18:00~20:00 定員 各8名

・ 視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ

日時 10月15日(日) 14:00~16:00、
10月18日(水) 18:00~20:00 定員 各14名

・ クワイエットアワーを利用してみよう!

主に知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方で、感覚や知覚などに過敏さがある方を対象とした、開館時間外に一定時間を解放する特別な鑑賞時間。

日時 10月17日(火) 09:00~11:00
10月24日(火) 09:00~11:00 定員 各30名

・ 知的障害、発達障害、精神障害のある人と考えよう! 展覧会のたのしみ方

知的障害、発達障害、精神障害のある人、テーマに関心のある文化事業に従事する方を対象とする展覧会の楽しみ方について議論するワークショップ。

日時 10月24日(火) 15:00~17:00 定員:10名

(2) 関連フォーラム

名称 「Museum of Together Forum」

日時 2017年10月22日(日) 14:00~18:00

会場 スパイラルホール(スパイラル3F)

定員 200名

プログラム

[第1部] ART (アート)

進行 ロジャー・マクドナルド、塩見有子(AIT / エイト)

ゲスト 山下完和(やまなみ工房)

本展出版作家 青山 悟、川内理香子、ピーター・マクドナルド、土屋信子

[第2部] ARCHITECTURE (アーキテクチャー)

出演 塚本由晴、貝島桃代(アトリエ・ワン)

[第3部] ACCESS ART PROGRAM (アクセス・アート・プログラム)

出演 柴崎由美子(NPO 法人エイブル・アート・ジャパン)、
林建太(視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ)、
西岡克浩(美術と手話プロジェクト)

(3) 特別フードメニュー

ランチセット 1,380円 (1日限定15食)

メニュー 秋の空に白く浮かぶ雲のようなスープ、
まるい月と火をかこむ、きのこのライスボウル

総注文数 265食

デザート 800円 / ドリンクセット 1,280円 (1日限定20食)

メニュー 樹々に実る色とりどりの果実とメレンゲ

総注文数 347食

(4) **キュレーターによるギャラリートーク**

日時 10月15日(日) 13:00~14:00、10月20日(金) 15:00~16:00

進行 ロジャー・マクドナルド、塩見有子(AIT / エイト)

(5) **アーティストによるギャラリートーク**

日時 10月14日(土) 17:30~18:30 出演 ピーター・マクドナルド、松永 直

日時 10月15日(日) 17:30~18:30 出演 川内理香子、占部史人

日時 10月20日(金) 17:30~18:30 出演 青山 悟

(6) **作家 渡邊義紘による切り絵実演**

日時 10月14日(土) 11:00~14:00、10月15日(日) 11:00~13:00

c. **概要**

障害の有無に関わらず共に楽しめる展覧会をコンセプトに、作品の選定を行い、アクセシビリティを考慮した会場構成により実施した。会場には、香取慎吾氏の2作品を含む障害者や現代作家など23人の作家による約500作品を展示し、期間中の来場者数は4万人に達した。

障害のある方と共に鑑賞を楽しむ「アクセス・アート・プログラム」では、日本初の試みとなる、知覚過敏の方を対象とし照明を落とし音に配慮した「クワイエットアワー」を導入。また、ユニバーサルマナー研修を受けた会場スタッフやアプリによる会場周辺のバリアフリー情報の提供など、人やIT、ソフト・ハードを活用しアクセシブルな場のあり方を提案した。

開催初日(10月13日)、秋篠宮妃殿下が本展を訪問され、清水千秋氏ら3人の作家から作品の説明を受けるなど、熱心に作品をご鑑賞になった。10月30日には、安倍総理が訪問され、展示作品を鑑賞した。

2. **情報発信**

ホームページや各種媒体を通じて、各種事業の情報発信に務めた。

a. **Webサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」**

「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS」のメインページとして、本事業関係行事や取材記事を掲載するだけでなく、国内外で開催される関連行事等も随時掲載した。

週1~3本程の頻度で記事を公開。

b. **ソーシャルメディアとの連携**

Facebook、InstagramとWebサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を連動させ、情報の拡散に努めた。3月末時点で、Facebookの「いいね」が961件、フォロワー数は1,118人、Instagramのフォロワー数も1,000人に達し、着実に数を伸ばして

いる。

c. 「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」の発行

Webメディアで掲載した記事を再構成し、「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」(タブロイド版、フリーペーパー)として今年度は2回発行した。発行部数15,000部、全国の文化施設、福祉施設、学校、書店、カフェ等で配架し、配架先も引き続き増加している。

d. 日本財団DIVERSITY IN THE ARTSパフォーミングアーツグループホームページ開設
パフォーミングアーツグループの実施事業を紹介するため、パフォーミングアーツグループのホームページを開設した。

3. 「障害者芸術支援フォーラム ～アートの多様性について考える～」の実施

a. 開催日時

日 時 2017年9月9日(土) 13:15～17:30
会 場 六本木ヒルズハリウッドプラザ ハリウッドホール
主 催 日本財団
制 作 一般財団法人日本財団DIVERSITY IN THE ARTS
共 催 障害者芸術支援フォーラム実行委員会
協 力 学校法人メイ・ウシヤマ学園・ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校、ハリウッド化粧品、社会福祉法人素王会アトリエ インカーブ、一般社団法人 Get in touch、国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)、株式会社NHK グローバルメディアサービス、株式会社しごと総合研究所、ホッピービバレッジ株式会社、株式会社カーブ・ド・リラックス
後 援 厚生労働省、東京都

b. プログラム

開 会 挨拶 竹村利道
ビデオメッセージ 村木厚子
基 調 講演 「障害者芸術支援とアール・ブリュット」 服部正
シンポジウム1 「日本のアール・ブリュットとは？」
シンポジスト 服部 正、山下完和、今中博之
モデレーター 中津川浩章
コーディネーター 東ちづる
海外からのメッセージ エドワード M・ゴメズ
シンポジウム2 「障害者の多様なアート活動の展開を考える」
シンポジスト 榎野展正、齋藤誠一、杉本志乃、田口ランディ、鈴木京子
モデレーター 中津川浩章

c. 概要

アートの多様性について考えることを目的とした本フォーラムには、618名の参加者があり大変盛況であった。

フォーラムでは、手話通訳、要約筆記、点字資料、拡大字資料やグラフィック・ファシリテーションにより情報保障を行った。

本フォーラムの開催により、多様な障害のある人の表現活動について、改めて学び、考えるきっかけとなった。

4. 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 作品展 ～BiG-i Art Collection 2017～」の実施、及び平成30年度に実施する公募展の準備活動

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘と育成、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害者アート公募展を実施する。平成29年度は、本事業実施のため、広報物の作成、審査員選出を行った。また平成30年5月には「ビッグ・アイ アートプロジェクト2017 作品募集事業（主催：国際障害者交流センター）」にて選出された作品による入選作品展を実施する。

■ 入選作品展

名 称 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 作品展

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ、Bunkamura（東京会場）

展覧会アートディレクター 中津川浩章

会 場

・横浜会場

会期 2018年5月15日(火)～5月21日(月)

時間 10:00～18:00 (20日(日)は17:00まで、最終日は15:00まで)

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

・東京会場

会期 2018年5月23日(水)～6月5日(火)

時間 10:00～19:30

会場 Bunkamura Gallery

5. 「国際障害者舞台芸術際(仮称)」実施に向けた環境整備、人材育成事業

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを一つの契機として、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)との共同により、障害のある人の優れた舞台芸術を国内外に

発信する「国際障害者舞台芸術祭(仮称)」を開催する。

2017年度は、(1)アーティストの発掘ワークショップ、(2)障害者自身が表現者として活躍できるよう、芸術性や表現力、それを生み出す身体的能力を高める育成プログラム、(3)多様な人々が劇場にアクセスしやすい環境づくりを目指した舞台鑑賞支援の研究・開発や実践、(4)シンガポールで開催されたアジア太平洋障害者芸術祭「True Colours Festival」への出品のための舞台作品等、環境整備や人材育成事業を主として実施した。

a. **アーティストの発掘ワークショップ**

・ **金井ケイスケ パフォーマンス・ワークショップ**

日 時 2017年12月3日(日)

1回目 10:00~12:00、2回目 14:00~16:00

場 所 カンテレ扇町スクエア 1階イベントスペース (大阪市北区)

講 師 金井ケイスケ (サーカスアーティスト)

参加者数 1回目10名、2回目10名

概 要 2020年の芸術祭に出演、参加するダンサー、俳優、パフォーマー、アーティストを募集するために開催した。

・ **DAZZLE ダンス・ワークショップ、オーディション**

日 時 2017年12月17日(日)

1回目 13:00~15:00、2回目 16:00~18:00

場 所 芸能花伝舎 (東京都新宿区)

講 師 DAZZLE (長谷川達也、金田健宏、荒井信治、飯塚浩一郎)

参加者数 1回目10名、2回目11名 (応募者数34名)

概 要 シンガポールで開催されたアジア太平洋障害者芸術祭「True Colours Festival」(2018年3月23~25日)に出品するダンス作品の出演者オーディションとして実施した。講師は、ストリートダンスとコンテンポラリーダンスを融合させたスタイルで活躍するダンスカンパニー・DAZZLEより4名の方を講師に迎えた。

b. **アーティスト育成プログラム「表現力のトレーニング」**

障害のある人を対象に、芸術表現を行う上での基礎となる体力、表現力を養うトレーニング・プログラムを実施した。今年度は「表現力」に焦点をあて、欧米のサーカスメソッドをベースに、サーカスの小道具やエアリアル(空中演技)を用い、全6回にわたり実施した。

日時 第1回 2017年11月18日(土) 14:00~15:30

第2回 2017年12月16日(土) 14:00~15:30

第3回 2018年1月13日(土) 14:00~15:30

第4回 2018年1月20日(土) 14:00~15:30

第5回 2018年2月24日(土) 14:00~15:30

追加回 2018年 2月25日(日) 11:00~12:30
場所 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム (東京都江東区)
講師 金井ケイスケ
参加者数 1回目 20名、2回目 21名、3回目 15名、4回目 17名、
5回目 16名、追加回 9名

c. **舞台鑑賞サポートプログラム**

2020年に開催する国際障害者芸術祭(仮称)において、最先端の鑑賞支援・情報保障によるサポートを実現するための鑑賞サポート研究・開発プログラムに取り組んだ。今年度は、舞台芸術における多言語対応字幕をテーマに有識者や専門家、聴覚障害のある当事者を交えた研究会を立ち上げ、実際の公演で日英ライブ字幕を実施するなど、実践と改善を繰り返す中から実用可能なシステム構築を目指した検証を行った。

・ **2017年度研究会メンバー**

河野純大 筑波技術大学准教授、博士
廣川麻子 シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長
渡辺彩乃 筑波技術大学卒業生
鈴木京子 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
南部充央 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
塚原沙和 SLOW LABEL (オブザーバー)

・ **第1回多言語字幕研究会**

日時 2017年10月14日(土) 10:30~12:30
場所 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 事務所 (東京都千代田区)
概要 字幕提供の歴史と今後の課題を共有し、11月26日に国際障害者交流センタービッグ・アイで開かれる「ビッグ・アイ アートフェスティバル」での日英ライブ字幕について協議した。

・ **第2回多言語字幕研究会(実践編)**

日時 2017年11月26日(日) 終日
場所 国際障害者交流センター ビッグ・アイ (大阪府堺市)
概要 ダンスパフォーマンスでは、作品感を損なわないために演出を入れた字幕を実施した。表彰式では、日英ライブ字幕(日本語→日本語と英語の字幕)を実施した。また、聴覚障害者5名、健聴者2名により、大型スクリーン、タブレット、メガネ型ディスプレイによる、演目ごとの表示端末についても検証した。

・ **第3回多言語字幕研究会**

日時 2017年12月23日(土) 10:30~12:30
場所 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 事務所
概要 第2回(実践編)の振り返りと、2018年2月4日にスパイラルホールで開かれ

る「SLOW MOVEMENT –Showcase & Forum–」での日英ライブ字幕に関して協議した。

・ **第4回多言語字幕研究会（実践編）**

日時 2018年2月4日（日） 終日

場所 スパイラルホール（東京都港区）

概要 海外ゲストによるプレゼンテーションでは、日英ライブ字幕を実施するとともに（英語→日本語・英語字幕）、会場に日本語の音声通訳を流さないことで、英語のわからない健聴者も字幕が唯一の情報手段となる環境をつくり、多様な人にとっての字幕について検証した。

・ **第5回多言語字幕研究会**

日時 2018年3月11日（日） 10:30～12:30

場所 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 事務所

概要 第4回（実践編）の振り返りと、今後の多言語字幕の可能性や総括について協議した。

d. **アジア太平洋障害者芸術祭「True Colours Festival」作品制作、参加**

・ **アジア太平洋障害者芸術祭「True Colours Festival」の概要**

日時 2018年3月23日（金）～25日（日）

場所 シンガポール・インドア・スタジアム、OCBC スクエアほか

主催 日本財団、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）

シンガポール運営団体 Very Special Arts (VSA)

後援 アジア太平洋障害者センター（APCD）

概要 アジア太平洋障害者芸術祭「True Colours Festival」は、アジア太平洋地域における障害者の舞台芸術活動を通して、障害者のエンパワーメントならびに障害者を取り巻く社会全体に対する啓発を行うことを目的に、日本財団とユネスコの主催により2018年3月にシンガポールで開催された。

会場は、シンガポール・インドア・スタジアム（シンガポール室内競技場）および、その周辺のOCBC スクエア等を含む近隣施設で行われ、3日間の開催期間中、約1万人を超す観客が訪れ、日本、中国、韓国、フィリピン、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド、ニューージーランド、オーストラリア等20か国以上から、200名を超すアーティストやパフォーマーが参加した。

また、関連プログラムとして、障害と芸術に関する会議やワークショップ、障害のあるアーティストらが意見交換・交流をする「アーティスト・ダイアログ・セッション」も開催され、多岐にわたる国際的な人材交流や知識・経験の共有がなされた。

当財団は、インドア・スタジアムとOCBC スクエアで上演するための新作2作品を約半年間かけて制作し、シンガポールで発表した。

・ 作品「Seek the Truth」

題名 「Seek the Truth (真実を求めて)」

上演 2018年3月23日(金)20:00開演、24日(土)18:00開演、25日(日)18:00開演

場所 シンガポール・インドア・スタジアム

演出・振付 長谷川達也 (DAZZLE 主宰)

出演 BOTAN×DAZZLE

BOTAN (踊るラッキーBOY 想真、梶本瑞希、鹿子澤拳、竹田凧沙、
西村大樹、根間麗華、東野寛子)

DAZZLE (長谷川達也、金田健宏、荒井信治、飯塚浩一郎、南雲篤史、
渡邊勇樹、高田秀文)

演出助手 三宅一輝 (DAZZLE)

衣裳 堂本教子、藤木りせ

音楽 Shusaku

テクニカル・ディレクター ラング・クレイグヒル

プロデュース 鈴木京子

・ 作品「女松虫」

題名 「女松虫 -Onna Matsumushi」

上演 2018年3月23日(金)18:30開演、24日(土)14:30開演、17:00開演

場所 OCBS スクエア

演出・振付・衣裳ディレクション ソンシリー・ジャイルズ

演出 金井ケイスケ

出演 森田かずよ、定行夏海

衣裳製作 武田久美子

音楽 ジェローム・バウアー

テクニカル・ディレクター ラング・クレイグヒル

プロデュース 栗栖良依

制作協力 SLOW LABEL

III. 総務報告

1. 評議員・役員に関する事項

(1) 評議員

佐藤英夫 平成 28 年 10 月 3 日就任 日本財団常務理事
松本源二 平成 28 年 10 月 3 日就任 笹川記念保健協力財団常務理事
中西由郎 平成 28 年 10 月 3 日就任 日本ゲートボール連合専務理事

(2) 理事

横尾紀彦(理事長) 平成 28 年 10 月 3 日就任 につぼん文楽プロジェクト理事長
小澤 直 平成 28 年 10 月 3 日就任 日本財団パラリンピックサポートセンター常務理事
鈴木浩司 平成 28 年 10 月 3 日就任 船の科学館常務理事

(3) 監事

中村健治 平成 28 年 10 月 3 日就任 日本科学協会常務理事

以上平成 30 年 3 月 31 日現在

2. 事務所の設置

パフォーマンスアーツグループの事務所とするため、平成 29 年 5 月 26 日、(株)野村商店と賃貸借契約を締結し、東京都千代田区内神田一丁目 3 番 5 号 野村ビル 2 階に事務所を設置し、6 月同所にパフォーマンスアーツグループの事務所を開設した。

3. 職員について

今後の事業展開に必要な人員を確保するため、平成 29 年 4 月、5 月、6 月に、4 名を有期契約職員として採用した。また同年 10 月、すでに採用している職員 3 名の契約を更新した。

